

卯月（四月）

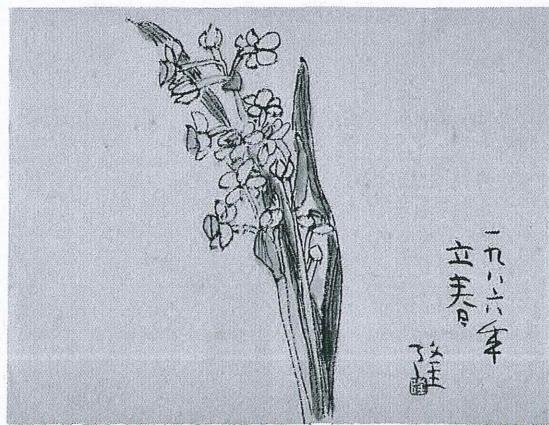


桜の頃になると、三十数年前の四月初旬、白洲正子先生に同行して伊豆大島の藍染作家・菅原匠さんを訪ねたことを思い出します。

白洲先生は当時、染織工芸のお店「こうげい」を銀座でやつていらして、主人と私はそこで白洲先生と落ち合い、羽田から飛行機で大島へと向かいました。上空から見た大島は、大島桜の淡いピンクにおおわれて、それは息をのむ美しさでした。素晴らしい光景に機内の人たちからも歓声があがるほどでした。

大島の空港には菅原さんが車で迎えに来てくださつていて、早速お住まいへとお連れくださいました。菅原邸は明治時代の古い民家を移築したもので、椿に囲まれて、ゆつたりと落ち着いた佇まいでした。白洲先生は菅原さんの取材のご用でしたが、私たちには菅原さんの藍がめで染めをさせていただく仕事がありましたので、絹糸を沢山用意していきました。

如月（二月）



「風の如月」と主人はよく言つっていました。二月は三日三晩強い風が止まずに吹き通すこともある月です。

ようやく風がおさまるとその夜はかなり厳しい冷え込みになります。翌朝戸を開けた時にはびっくり、雪かと見間違えるほどの霜が真白に降りています。日陰には霜柱が立ち、三匹の犬たちが庭をザクザクと音をたてながら走り廻ります。

我が家は皆犬が好きで数十年の間にはいろいろな犬との縁がありました。中でも忘れられないのが主人が晩年になつてから家に來た、小太郎（雄）、シロ（雌）、チビ（雌）です。この三匹とは最後まで一緒に暮らしました。主人は毎朝、並んだこの三匹に向かい合つて腰かけ、ドッグフードを手のひらから食べ